平成 24 年度・技術情報第7号

平成 25 年　3月 15 日
沖縄県病害虫防除技術センター

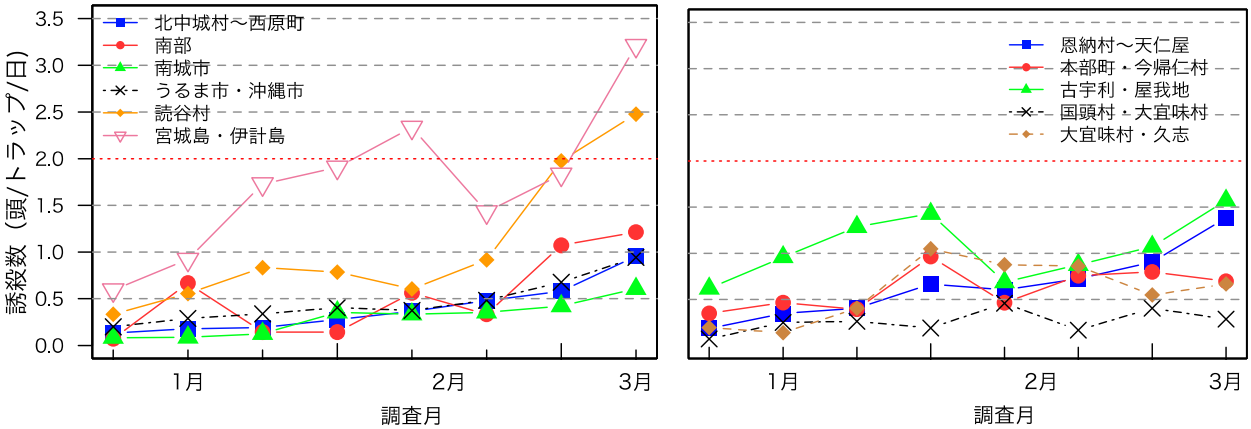
イネヨトウの発生状況および防除対策について

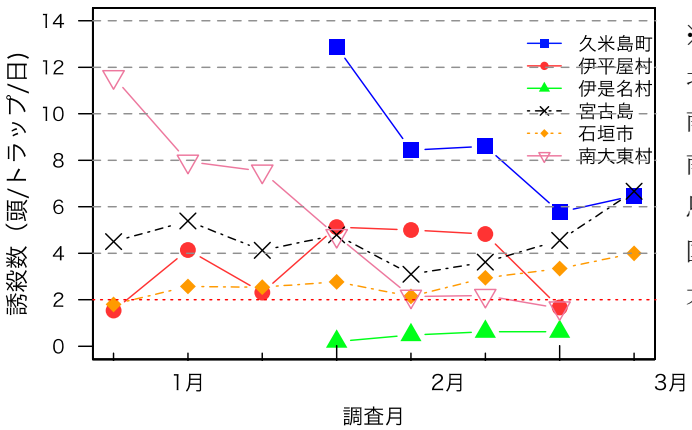
県内全域において合成性フェロモントラップを用いてイネヨトウの発生状況を調査したところ、沖縄本島の一部地域および離島において本種の発生が多い状況にあることが確認されました。今後の被害拡大が懸念されますので、植え付け・株出し管理時の防除対策を徹底しましょう。

1　イネヨトウの発生状況

各地域における 2013 年1月からの合成性フェロモントラップによるイネヨトウのトラップ当たり日当たり誘殺虫数は図1のとおりであった。各市町村における誘殺状況については当所ホームページ(http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html)を参照のこと。

なお、与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭(グラフ中の赤点線)以上であった。





※凡例中の表記について
北中城村～西原町:北中城村、中城村、浦添市、西原町
南部:糸満市、八重瀬町、南風原町、豊見城市、南城市大里
南城市:南城市知念・佐敷
恩納村～天仁屋:恩納村、金武町、宜野座村、名護市天仁屋
国頭村・大宜味村:国頭村、大宜味村田嘉里
大宜味村・久志:大宜味村大保・白浜、名護市久志

図1　イネヨトウ誘殺数の推移

2 発生生態および被害

（1） 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。

（2） 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は 400～700 卵に達する。

（3） ふ化幼虫は、葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害し芯枯れを起こす（図3）。

（4） 初期被害は圃場周縁部で見られ、圃場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に発生するため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

（5） 被害圃場およびイネ科雑草地が発生源となり、新植圃場に侵入する。

図2 イネヨトウ幼虫

図3 芯枯茎

3 防除対策上注意すべき事項

（1） イネヨトウはイネ科雑草にも寄生することから、圃場内外の除草を徹底する。

（2） 生育初期に発生した場合は被害が大きくなることから、圃場をよく観察し、芯枯茎の有無を確認する。

（3） 芯枯茎を確認した場合は、茎を地際部より深く切り取り処分する。被害が大きい場合は薬剤による防除を行う。

（4） 粒剤は施用にかかる労力が少なく、かつイネヨトウに効果の高い防除手段であるので（図4）、植え付け時・培土時に施用する。なお、粒剤は施用後土壌混和する（図5）。

（5） 乳剤を散布する場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。一週間おきに2～3回散布すると効果が高まる。

（6） 天敵を温存するために、散布剤による薬剤防除は6月までに徹底して行う。

（7） 薬剤散布の際は飛散（ドリフト）防止に努める。

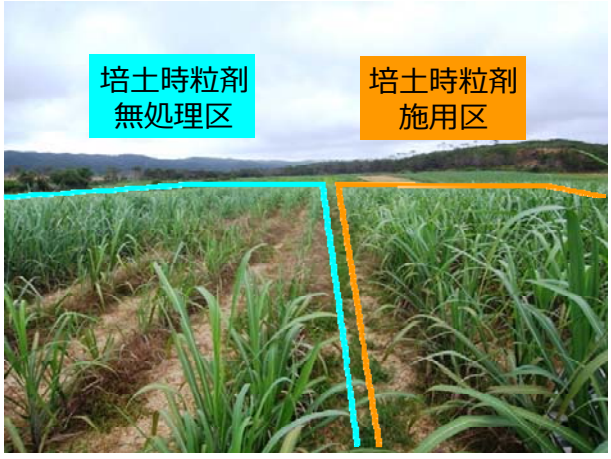


図4 粒剤無処理区（左）と処理区（右）の被害発生状況

図5 粒剤は処理後土壌混和する

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL：（本所）098-886-3881、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933
ホームページアドレス ： http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html